



月1回15日発行

発行人 金子 彰
編集人 倉持光好

日教組 埼玉教組 ニュース

発行所 埼玉教職員組合 〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-13-10 ヤギシタビル4F TEL 048(823)4061 FAX 048(823)4062

(URL)http://www16.ocn.ne.jp/~stu/

(E-mail)stuurawa@peach.ocn.ne.jp



早期退職問題 制度設計失敗を「聖職論」で隠すのか?!

教員の早期退職問題について1月24日、下村博文文科大臣は、「教員が自己都合で早期に辞めるのは、決して許されない」と暴論を述べました。これは、上田清司埼玉県知事同様、行政自らが招いた制度設計のミスを利用し、「教師聖職論」に依拠した世論を利用し、責任を現場教職員に押しつけようとするものであり、決して許されるものではありません。

1月25日の埼玉新聞に、前島県教育長が、「校長に早期退職を希望している教員や教頭に再考を促す働きかけを求めた」とありました。埼玉教組は、県教委が一部県会議員の圧力に屈し、市町村別の早期退職希望者の人数を明らかにしたことに強く抗議しました。弱い立場の教職員が個別に詰め寄られては、人権問題にかかわるとして、県教委に対し、組合との交渉で確認したように「個々の教職員には責任はなく、個々の判断を尊重する」ことを再度確認しました。県教委担当課は、当初、「文書を出すなど、具体的なことは考えていない」と述べていたにもかかわらず、1月28日、文科省の通知を伝達する形で、県教育長通知を發出しました。それは県教育長のコメント付で「年度末まで児童生徒のために職務を全うしていただきたい」とあり、行政が招いた混乱の責任については、一言も触れていません。現場教職員は、無責任な埼玉県の教育行政に対して大きな怒りを感じています。

2013 埼玉教組 新春旗開き開催

1月5日、まだ新学期が始まらない土曜日でしたが、埼玉教職員組合の「2013年新春旗開き」が



▲ 決意表明する各支部長

さいたま共済会館を会場に開催されました。旗開きでは、飯田潔副委員長の開会の挨拶に続き、主催者を代表して、金子彰中央執行委員長から、「今年も力を合わせて、苦難を乗り越えていこう」との新春の挨拶がありました。

その後、連合傘下の多くの労働組合代表や、民主団体、日政連議員、また、民主党、社民党の代表から連帯の挨拶をいただきました。

後半は、懇談後、豪華景品の当たるビンゴゲームで盛り上がりました。そして、各支部代表からの決意表明を受けて、金子委員長の音頭による「団結ガンパロウ」の後、青年部の仲間による若々しい閉会の挨拶で楽しい会がお開きとなりました。

今年も現場第一主義で!

羅針盤

埼玉県の教員早期退職問題に関して、組合攻撃を警戒しながらも、たくさんの新聞やテレビ番組の取材を受けた ▶ひどい制度をつくった責任を棚上げ、苦渋の選択をした教員の責任を云々する知事。ふざけるなという現場教職員の気持ちや考えを代弁するために埼玉教組

は奮闘したつもりだ ▶交渉で、現場の混乱を避けるための組合側からの提案をことごとく拒絶した県や県教委の責任こそ問われなければならないはずだ ▶取材、収録にたくさんの時間を使いながら、放映されるのは、ほんの数秒程度。全部カットされた番組もあり、腹立たしい。組合本部に嫌がらせのメールや電話もあったものの、マスコミの論調も、次第に「教職員に罪はない、

制度が悪い」というように変化してきた ▶教育学者の大田堯先生からは、誤解を与えるような小見出しのついたご自身のコメントについて、直ちに抗議し、改めての取材を受けたとの連絡をいただいた ▶それにしても、初めから新聞等の取材を拒否していた全教=埼玉教組が、初めに収まりかけた2月1日になって、初めて埼玉新聞にコメントを出したという事実は、記録しておきたい。

変化してきた 報道・世論

上田知事の「やめる教員は無責任のそりりは免れない」発言(1月22日)以降、テレビ、新聞は、教員バッシングであふれ、埼玉教組にも嫌がらせの電話やメールが寄せられました。埼玉教組は、連日わたる新聞やテレビの取材に対し、現場を代表しての意見を発信し続けました。今回の事態は、設計にミスのある制度を強行実施した行政にこそ責任があり、教員批判はお門違いであること、予想された混乱を避けるべく、提案し続けた組合の考えを退け、一方的に問題ある制度を強行し

た行政、教育行政を批判し、現場教職員の権利擁護を主張してきました。その後、組合支持のメールや電話も届くようになり、事態を客観的に見た上での制度の不備を突き、教職員を擁護する新聞報道等も増えてきました。

1月29日の東京新聞全国版は、「制度設計の失敗『聖職論』で隠す」 「駆け込みはむしろ行政側」という見出しで、現場教職員の苦悩や識者の意見を掲載しています。早稲田大学の稲継教授は、「公務員も給与生活者という点では変わりはない。制度設計の欠陥を個人の責任にするのは、おかしい」と明確に述べています。

オスプレイ配備に反対!!

1.27東京集会に4000人



1月27日、「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」実行委員会による「NO OSPREY 東京集会」が日比谷野外音楽堂で開かれ、沖縄県教組をはじめ日教組の仲間も含め約4000人が参加しました。埼玉教組からも金子委員長をはじめ組合員が参加しました。

集会では、米軍普天間飛行場に配備されたオスプレイや嘉手納基地への配備計画のいずれも直ちに撤回することなどを強く求め、平和で安全なあたりまえの生活を求めました。実行委共同代表の翁長雄志市長会長は「沖縄が日本に復帰しても、0.6%の面積に74%の米軍専用施設を押しつけられ、基本的人権は踏みにじられ、今回のオスプレイの強行配備で怒りは頂点に達している」と沖縄の現状を説明し、「安保体制は日本全体で考えるべきだ」と訴えました。

参加者らは集会後、銀座通りなど約2キロをデモパレードし、オスプレイ配備反対を沿道の市民に訴えました。しかし、今回、沿道には、動員された右翼勢力が陣取り、卑劣な悪口をデモ隊に浴びせていました。沖縄県から全41の市町村長、市町村議会議長、33人の県会議員が参加した行動に対しての罵詈雑言、安倍政権になつて、親米右翼勢力が勢いづいているのではないかと心配する人もいました。

埼玉教組に届いた意見から

早期退職問題...

◆一連の教職員早期退職報道拝見しております。今朝のZIPの放送を見て、メールさせて頂いた頂きました。まず、100名超える退職希望者を出す異常事態の原因は、制度にあります。県が経費削減の為に一方的に1月末に実施するわけですから、削減前に退職希望が出るのは、民主主義の基本権利で教職員の生活を考慮しなかつた県に大きな責任があり、非難に値しない立場です。

◆第一報を聞いたとき、「何をバカな!」と思いましたが、教員の任期は、3月までとは、周知のことなのに、年度途中で、退職金減額を通告するのは、教員をバカにしていると思えません。今度の件は、誰が悪いのでしょうか?各県の自治体がこのようない理不尽な条例を可決したからだとしたら、議員の感覚がおかしいのです。そもそも世の中が好景気の時に公務員の給与もあげようという話にはならないのに、今のようない不景気の時だけ、公務員を下げようということなるような気がします。「無責任」発言をした上田知事達は、謝罪すべきです。

◆このような不備のある条例を作ったのは、あなた方議員ではないですか? 早期退職を申し出た方は、あ



なた達のつくった制度の枠からは一歩もはみ出してはいけません。思いは別として、行政的には粛々と制度の枠に沿って処理するしかないのではないのでしょうか。

私を含め、職場の多くの教員は、「さんざん教員を粗末に扱ってきた、無責任とは何だ」と、上田知事発言に怒っています。私たち教員も人間です。霞を食っては生きていけません。年金への信頼も揺らいでいる中、退職直前に退職金が減らされることに失望し、自分のこれからの生活を見通す中で葛藤した末に早期退職する人を、私は責めることができません。現場の混乱の原因を作ったのは、不備のある制度を作ったあなた達県会議員と制度を管理する責任者の上田知事です。混乱の責任を取って、早期退職される教員の退職金の一部を、あなた達が負担したらどうですか?

◆夜のNHKニュース、見ました。組合が、しっかりと主張しており、よかったです。全く、県教委というか埼玉県がこういう制度を導入したのが原因なのに、教職員に責任転嫁してるみたいで、とんでもないことだと思っていました。

1月19日(土) 埼玉教組本部会議室に、不登校のお子さんを携つご両親が来室。埼玉教組スクールカウンセラー連絡会の臨床心理士が相談にのりました。2時間近くの相談でしたが、参加されたご両親には感謝されました。今後も、無料で教育相談を受け付けていますので、気軽にご相談ください。

『親と子どもとの教育相談開始』

2月の活動予定

- 2日(土) 第22回中央執行委員会、選挙管理委員会
- 女性部・養護教員部合同学習会
- 3日(日) 連合埼玉パワーアップセミナー
- 5日(火) 春闘学習会実行委員会
- 6日(水) 連合春闘中央集会
- 食・みどり・水を守る会幹事会
- 7日(木) 日教組春闘討論集会
- 8日(金) 比企支部会議
- 9日(土) 日教組青年部討論集会
- 11日(月) 建国記念の日を考える集い
- 13日(水) 日教組関プロ代表者会議
- 15日(金) 第3回日教組全国代表者会議
- 16日(土) 日教組組織部長会議
- 19日(月) 第23回中央執行委員会
- 23日(土) 日教組人権教育集会
- 児玉郡市人権教育推進委員会
- 26日(火) 埼玉春闘学習集会



やめさせよう！フッ素洗口

女性部・養護教員部合同学習会



群馬県教組の佐藤一枝さん

2月2日、埼玉教組女性部・養護教員部は、合同で「集団フッ化物洗口・塗布」問題についての学習会を開催しました。会場の国立女性教育会館研修室には、各支部から男性を含む組合員が30名以上集まり、熱心に学びました。講師は、群馬県教組の養護教員部長の佐藤一枝さん。プロジェクトを使いながら、フッ素とは何かから、フッ素の害、中毒、フッ素の歴史等の詳しい説明の後、様々な専門家や日弁連などの団体の意見も引用しながら、医療倫理に反しているフッ素の使用に關し、大きな警鐘を打ち鳴らしました。現場における問題

点として、●危険性を知らせない ●インフォームドコンセントのなさ ●急性中毒の危険性 ●学校での集団医療行為の問題 ●劇薬使用責任の所在のあいまいさ ●行政などのパワハラなどの問題があげられました。

最後に日教組の取組として、●子どもの人権保障 ●自己決定権の確立 ●学校は教育の場であり、医療でない問題 ●健康教育や健康相談の充実をあげ、安全性を考え、疑わしきは、用いずの観点で、学校において、集団フッ化物洗口・塗布はやめるよう訴えました。講演後、質疑が多くの参加者から出されました。「本庄市では、すでに実施が決まられているが、どうしたらよいか?」「資格がないのに希釈してよいのか?」「責任者である校長に念書をとる必要はないのか?」「事故が起きたときの責任の所在は?」等々の質問に講師を交えて、活発な意見交流が行われました。参加した倉持副委員長は、挨拶の中で、要求書等も準備し、県教委担当課とも協議し、問題を明らかにしながら「集団フッ化物洗口・塗布」についてやめさせるよう働きかけたいと述べました。

目的に照らし、賃金手当等とは関係ないことを再確認!

評価制度悪用・誤用校長を指導! 評価制度県教委交渉

12月27日、埼玉教組は、「教員の評価制度に関する要求書」にもとづき、県教委交渉を行いました。交渉では、昨年度の市町村立小中学校等総合評価分布実態を検証しながら、現行制度の問題点や一部校長の問題発言、行為等について、議論しました。



交渉で組合の見解を述べる金子委員長

人事評価目的を再確認 交渉では、はじめに、人事評価の目的を再確認しました。それは、「公正な人事管理に資するとともに、職員の資質及び能力の向上を図ることにより、学校の教育力を高め、もって職員が協力して児童及び生徒を伸び伸びと健やかに成長させること」を目標にすること、つまり、管理職も教員もともに、向上するためのものであり、差別化を進めるといふものではないということです。

◎ネットワークSAITAMA21運動 ボランティアカード受付開始

連合埼玉と労働者福祉協議会が推進母体となって、「労働運動・労働福祉運動の新しいカタチ」として、ネットワークSAITAMA21運動(ネット21運動)が展開されています。カードは1枚ワンコイン500円です。ボランティア基金になる他、連携の飲食店等での割引特典付きです。 埼玉教組本部にお問い合わせ下さい。

◎2013春闘勝利 埼玉学習交流集会開催予定

実行委員会が開催され、準備が進んでいます。春闘交流集会は、2月26日(火)午後6時30分から、さいたま市民会館おおみや集会室で開催されます。講演「働く者の状態と13春闘の課題」講師は新聞労連委員長の東海林智さんです。官民分断に抗して運動を進め、励まし合います。

一部校長による様々な問題発言・行動は指導! 前年、C評価をつけた教員に對して、月1回の面談を一方的に強要し、「いやなら、今度は評価をDに下げる」的な発言を行った例、自己評価で、達成率を控えめに厳しく50%と報告した教員に對し、「目標達成率50%の教員には、仕事は頼めない!」と言いつつ、教員のやる気をそいだ校長、また、「数値目標を求め、その数字に支配されるような評価を求める」校長などの例などが出されました。これらは、まさに評価制度を誤用、あるいは悪用した問題発言だと組合側から鋭い追及がありました。県教委は、「C評価をつけざるをえなかつたら、その後、その教員を援助してプラス方向に進めたい」と言明しました。 また、県教委は、今年度は、埼玉教組と確認している人事評価目的や定期評価者の心構えなどを抜粋した「教職員評価システム評価者研修テキスト」を市町村教育委員会に配布し、活用を促し、目的を再確認するとともに、校長等が問題を起こさないように指導したい」と言明しました。

第62次日教組教育研究全国集会IN佐賀開催

憲法・子どもの権利条約の理念を大切に



1月26日～28日に、全国からのべ一万人の教職員が佐賀県に集まり、第62次日教組教育研究全国集会が開催されました。全体会では、加藤良輔日教組中央執行委員長が、教育活動を通じた社会的対話を進めようという主催者挨拶を行いました。

全体集会では「子どもの学習権を保障し、いのち・人権を守る教育を」というテーマでの「アピール」を採択し、仲間とともに協力・協働の職場をつくり、憲法・子どもの権利条約の理念を大切に、具現化をはかるために平和・人権・環境・共生を中心に、民主社会の主権者を育む教育実践を学校現場から積み上げていく決意を表明しました。

記念講演では、内田樹さんが、『教育の危機 グローバル化に抗して』というテーマで参加した組合員の胸に届く有意義な話をしてくれました。

特別分科会では、ワークシヨップと「子どもシンポジウム」が行われました。地元で活動する団体による、「ネット被害を考えよう」をテーマにしたものや、段ボールを使って木や花をつくり、室内を森にするワークシヨップなどが行われました。シンポジウムでは、地元の中高生が率直な意見を述べ、熱心にメモを取る参加者の姿が見られました。

埼玉教組からも青木教文部長、レポーター（日本語教育分科会・障害児教育分科会・平和教育分科会・総合学習分科会）、自主参加者など8名が参加し、全国の仲間と交流し、学び会いました。なお、埼玉での教育研究全国集会還流集会は、3月2日（土）13時30分に予定されています。

教育研究全国集会報告（1）



『全国教研参加記2013』
日本語教育分科会
児玉 大里支部 鳥羽 大河

佐賀で開催された全国教研が終わった。今回私が発表したのは、全人教大会で発表したものとほぼ同じものだった。タイトルは「Aの笑顔のその先に みんなの笑顔 笑顔かがやく」。最近、私の子ども理解と学級づくりにかかせない「日記」から私が学んだという内容のものだった。なぜ、これを日本語教育で発表するのか。それには、私の生活綴方的教育方法を学級づくりの視点から提案したいというねらいがあったからだ。しかし、発表は、5分という短さであった。作文をよめば、3分は消えてしまう。このような状態で発表したのが、質問や討議も一つも出なかった。「しまった。私は、佐賀に何をしにきたんだあ。」と心の中で叫んだ。しかし、救いもあった。



『全国教研に参加して』
平和教育分科会
南支部 中條 克俊

私のリポートテーマは「平和おじさんの平和学習アラカルト」です。「平和おじさん」は生徒が私にくれたあだ名です。「すべての学習は平和学習」と投げかけた今までの実践と〇八年から一一年までの三年間にわたつての総合学習の実践を報告しました。沖縄、広島、長崎をはじめ全国各地の実践に多くを学ぶことができました。その中で「歴史の真実を回避することなく、むしろこれを歴史の教訓として直視」（一九九三年の「河野談話」）するとはどういうこと

私と同じような実践をしている小濱さんが三重代表として発表していた。ある子が日記と教師とのかわりで変わってゆく様が目に浮かんでくるようだった。同じ方向を向く同士、休み時間の話はずんだ。そして、これからやりとりをしていくことになった。また、大阪の実践もまた、新たな学びとなった。日常を綴ることから一人の子が変わった実践だった。そこには、教師と子どもと親の3人で力を合わせたやりとりがあった。やはり、教育は対立ではだめだ。同方向を向いて力を合わせなければいけないと確認したのだった。大阪の綴方教育は、解放教育と密接につながっているということを感じた。全国の実践を通し、私がすべきことはまだまだたくさんある。日記をもとにした学級づくりの展開を考えていくということ。埼玉にも日記をもとにした学級づくりを展開する同志を増やすということ。幸い、職場の仲間や日記を重要視する声があがり始めている。今回の学びを子どもたちに学び、還元し、同志と手をつないでいく出発点となつたらと思う。

か考えました。

日本の歴史の負の側面を直視しているかどうかは今まさに問われてきています。ざつと振り返つただけでも、秀吉の朝鮮侵略、台湾出兵・日清戦争にはじまる侵略戦争の歴史（中国侵略、朝鮮植民地支配、東南アジア侵略、とりわけ南京大虐殺、朝鮮人強制連行、従軍慰安婦問題、関東大震災時の朝鮮人虐殺、沖繩戦末期の集団自決などあげられます。まずは教える側が、とりわけ若い先生方がこれらの歴史の真実を直視しているかどうかというよりも直視できるかが今後の課題でしょう。

最終日、帰路に着くまでのほんのわずかな時間でしたが、佐賀の乱の舞台となった佐賀城址を見学できたことはとても有意義でした。